

小規模企業振興条例の制定を



宇津木 治宣



町長

周辺自治体を注視し研究

質問 小規模企業振興条例は、県内では15の自治体が条例を制定している。本町においても、条例を制定し、中小企業への支援を強め活気あるまちづくりを進めるべきでは。

答弁 町長 町では、小口資金などの制度資金や創業者者融資利子補給、町内業者優先の入札制度など特段の配慮をしている。

周辺自治体の動向や条例制定による振興の効果などを注視し研究したい。

「国際教育特区」のまちを生かせ

質問 フェリーチエ玉村国際小学校は、国から認定を受けた「玉村町国際教育特区」に基づき、株式会社立の小学校として町が設置許可し、開校した。フェリーチエと連携し「国際教育のまち」を生かす取り組みを進めてはどうか。

答弁 町長 フェリーチエは、地域との連携にも積極的

に取り組んでいる。県民の日には、町内小学校の全児童を対象に「わくわく英語村」を同校で実施し、ネイティブな英語に触れてもらう機会を設けている。今後も英語教育などの充実の面からも連携を深めていく。

答弁 教育長 当町は、「国際教育特区」の指定を受け、国際教育の推進を一つの柱とし、



フェリーチエ小学校新校舎

外国語指導助手の常駐配置など英語教育に力を入れている。フェリーチエとの連携・交流は、意義があると認識している。

デマンド型交通の検討を

質問 実証実験としてのタクシー券補助事業は、課題が多い。路線バスやコミュニティバスなどの路線定期型交通にかわる運行形態としてデマンド型交通が注目されている。「公共交通網形成計画」の中でデマンド型交通の検討を進めるべきでは。

答弁 町長 タクシー券補助については迎車料金の軽減を図るため、来年度から芝根地区に建設予定の水防センター等にタクシー待機所を設けていきたい。当町の現状では、デマンド型交通の導入は難しいが、「公共交通網形成計画」策定の中で研究したい。

地域福祉計画等の進捗状況は



小林 一幸



町長

年度内の計画策定を目指す



地域福祉計画策定に向けたワークショップの様子

質問 地域福祉計画・自殺対策計画・成年後見制度利用促進基本計画の進捗状況は。

答弁 町長 これまで3回の計画策定委員会を開催し素案を作成した。またその間、町民アンケート、ワークショップ※1も実施した。今後は、素案の校正を行い、12月中旬にパブリックコメント※2を実施し、年度内の計画完成を目指している。

質問 地域福祉計画における社会福祉協議会の役割は。

答弁 健康福祉課長 地域福祉の推進に当たり、社会福祉協議会が担う役割はとても重要なものであり、本計画の中にも位置づけを明記している。

児童発達相談の現状と取り組みは

質問 障がい児支援の提供体制整備についての取り組みは。

答弁 町長 平成32年を目標に児童発達支援センターの設置について、玉村町障がい者総合支援協議会発達障害児支援部会で検討している。

質問 発達障害を含め、障がい児相談支援事業での相談件数は。

答弁 町長 玉村町障がい者（児）基幹相談支援センターで児童も含め、常時・緊急時いずれも対応できる体制を整えており、9月末までに実人数73人の相談があった。

国保特定健診の受診率向上策は

質問 国保特定健診（集団・個別）の受診状況は。また、受診率を上げる工夫は。

答弁 町長 受診率は40%台前半で推移している。受診機会を増やすため、土曜日・日曜日の実施や午後・夜間にも受診可能な日を設定している。また、特定健診に関しては広報への記事掲載やホームページ、メルタまでお知らせを発信し、受診率の向上に向け取り組んでいる。

※1「ワークショップとは」
学びや問題解決のため参加者が自由な意見交換や共同体験を行う、参加型の研修会などの集まり。
※2「パブリックコメントとは」
行政機関等が政策立案する過程で事前に案を示し、公に広く意見や情報を求める仕組み。